

防災講話・ビデオ上映(45分)

●講話内容

◎広島が被災した主な災害で地震災害・豪雨災害(土砂・洪水)・内水氾濫・高潮災害などの被災状況と自主防災会の活動内容

【教材】①平成26年8.20 広島豪雨災害体験談集

②平成30年西日本豪雨災害体験談集

◎避難所運営と防災コミュニティ

◎子ども防災教育の内容とキッズ防災士の活動事例

◎その他

●準備する物

PC, プロジェクター、スクリーン、マイク

資料印刷

アンケート

●準備する物(依頼側)

会場(電源)(机・いす)

受け付け・筆記用具

●費用

会場借り上げ料

●講師

協会職員

発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

まち歩き(90分)

●点検箇所(事前にコースを確認します)

○周辺の①危険箇所、②安全な施設、③役に立つ施設や河川・避難路・溪流や過去災害が発生した地域を確認します。

○アンダーパス・下水など豪雨時に留意する施設を確認します。

○大型商業施設、大型店、立体駐車場など被災時役立つ施設を確認します。

○学校・公民館・老人ホーム・その他避難の時役立つ施設を点検します。

○土砂災害警戒区域や河川氾濫区域を確認します

○崖からの噴水やがけ地の崩壊箇所などを見つける

○スーパー、コンビニ、土木会社、輸送会社などの確認

○地域の特徴を見つける

●まち歩きの進め方

○事前にグループ内で役割分担を決める

○概ね10名のグループ編成(グループにカメラ、ハザードマップ、A4版地図を配布。

○最前列と最後尾に安全監視院を配置し、自転車・バイク・自動車が見えたら、みんなに注意を促します。

●準備する物

画板(A4版各1枚)

地図(A版各1枚)

警笛、警告灯、携帯拡声器、

筆記用具(鉛筆、マジック、傘又は雨衣)

カメラ、スケッチブック、

夏季=熱中症に留意する(警戒アラート発令中はまち歩きは中止)、水筒、運動靴

●費用

●講師

協会職員(防災士)

発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

防災マップ作製(120分)

- A0版の地図上に、まち歩きで気付いたこと、説明を受けた内容を表わす
テーマ(題)を決める
チームのメンバー(名前)を記入
ハザードマップを記入、河川・道路・山・ため池・避難場所・主な公共施設などに着色
避難路を記入
チームで強調するところを決める。

●マップ作製のポイント

- 目的がわかるマップとする(着色ははっきりと)
- 立体工作を糊付けしたり、匂いをつけることによって理解しやすい
- 大人は手を加えない(アドバイスいい)
- 付箋やテープ・ビニールひもを利用すると目的が理解しやすい
- 作成する際は、役割分担を決めて取掛る。



●準備する物(協会が準備します)

- 写真用紙、付箋、色鉛筆、マーカー、マジック、はさみ、糊、テープ、色紙、ビニールひも、など
- A0版地図(大型プリンターで作成する)
- ごみ袋、アルコール綿(文字消し)、

●費用

●指導

協会職員

●その他

本事業で作成したマップは、損保協会「小学生の防災探検隊マップコンクール」へ応募します。(写真提出)

発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

災害エスノグラフィ(45分)

●災害エスノグラフィとは

- ①災害現場に居合わせた人々自身の言葉で教え合う
- ②災害現場に居合わせた人々の視点から災害像を描く
- ③傍観者の視点を捨てて追体験する

災害エスノグラフィ教本の体験談を参加者が順に読んで行く

○参加者は、①まず職員に災害エスノグラフィーの文章を読んでもらいます。

- ②災害対応のイメージをつけ、想定外の事態が多いということを認識する。
- ③災害エスノグラフィーで得たイメージや知識、教訓を通して、自らの防災計画や防災マニュアルを見直してもらいます。
- ④災害エスノグラフィーと似たような状況が発生したら果たして自分たちの現状の防災体制で乗り越えられるのかを確認します。



●準備する物

災害エスノグラフィ教本
マーカー(3色)
ホワイトボード、

●費用

災害エスノグラフィ教本(1冊 2,000円)

●指導

協会職員

発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

負傷者の応急手当(60分)

●災害現場では、救急車を要請してもいつも通り駆けつけてくれることは困難です。

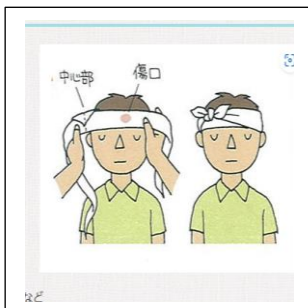
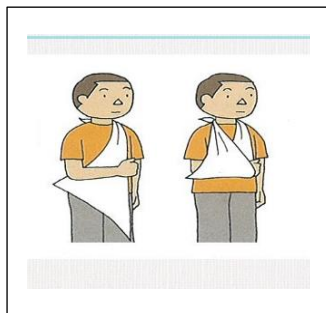
地震・風水害などの災害で、建物の下敷きになったり、打撲、切傷、骨折などの負傷した場合、応急手当をする必要があります。そこで救命講習ではなく応急手当がいつでもだれでもできるよう習得しておきましょう。

○バイタルサインの確認(脈拍、SPO2、血圧、意識、呼吸、体温)の確認方法

○三角巾の使い方(止血、骨折処置、

○倒壊家屋の救出(クラッシュシンドローム)

○トリアージの意味と訓練



●準備する物

血圧計、体温計、脈拍計

三角巾(参加者数×2枚)

トリアージタック

●費用

三角巾(一人1個)

●指導者

協会職員

発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

炊出し炊飯(60分)

●ハイゼックス炊飯(1人前)

ハイゼックスビニール袋、米(1合)、飲料水、
ふりかけ、缶詰め、お漬物、お茶

●豚汁(レシピ 材料(2人前))

- 豚バラ肉(薄切り):100g
- ごぼう:1/3本
- 大根:50g
- にんじん:50g
- 長ねぎ:1/2本
- こんにゃく:1/2個
- ごま油:小さじ1
- 水:500ml
- 顆粒和風だし:小さじ1
- みそ:大さじ2

1. ごぼうは皮をこそげ落とし、さがきにして水にさらします。大根とにんじんは薄いいちょう切りにします。長ねぎは斜めに薄切り、こんにゃくは薄切りにします。
2. 豚バラ肉は一口大に切ります。
3. 鍋にごま油を熱し、豚バラ肉を中火で炒めます。
4. 肉の色が変わったら、大根、にんじん、ごぼう、こんにゃくを加えて炒めます。
5. 水と顆粒和風だしを加え、ひと煮立ちさせます。
6. アクを取り除きながら、野菜がやわらかくなるまで中火で煮込みます。
7. 最後にみそを溶かし入れ、器に盛り付けて完成。

●カレー(レシピ 材料(6皿分))

- カレールウ:1/2箱(115g)
- 牛肉(角切り):250g
- 玉ねぎ(中):2個(400g)
- じゃがいも(中):1.5個(230g)
- にんじん(中):1/2本(100g)
- サラダ油:大さじ1
- 水:850ml

(鍋にフタをする場合は750ml)

1、具材を切る:

◎玉ねぎは縦半分に切り、放射線状にくし切り。

◎じゃがいもは縦半分に切り、さらに半分に切ったものを2等分にします。

◎にんじんは縦半分に切り、3cmくらいの大きさに乱切りします。

2、具材を炒める:

◎厚手の鍋にサラダ油を熱し、牛肉、玉ねぎ、じゃがいも、にんじんを入れ、肉に焼き目がつき、玉ねぎがしんなりするまで炒めます。



3、煮る:

◎水を加え、沸騰したらあくを取ります。

◎具材が柔らかくなるまで弱火～中火で約 15 分煮込みます。

4、ルウを入れて煮込む:

◎一旦火を止め、沸騰がおさまってからルウを割り入れてよく溶かします。

◎再び弱火で時々かき混ぜながら、とろみがつくまで約 10 分煮込んで完成です。

準備する物

●カセットコンロ、ガスボンベ、鍋(10ℓ入り)、お玉

●豚汁炊出し

炊き出し用コンロ、灯油ボイラー、灯油、まな板、包丁、ピーラー、消毒液、ざる、桶

○個人用＝お皿、箸、スプーン、コップ

費用

講師

協会職員



発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

非常持出し袋を作ろう(90分)

●実際にホームセンター、あるいは東急ハンズに出かけて非常持出し袋を作ってみる。

○地震災害用非常持出し袋を作ろう

【予算一人 2000 円】

◎帰宅後、持ち寄りグッズを比較する



○家庭用備蓄品をそろえよう(その①)

| | | |
|--|---|--|
| <p>水と食料 水・非常食</p> | <p>貴重品 身に付けられる入れ物 (サコッシュ・ポーチ)</p> | <p>情報収集ツール スマホの充電ケーブル</p> |
| <p>避難生活を支えるもの ◎睡眠をサポートするもの フロアマット・枕・アイマスク 耳栓・アルミシート(羽織る、敷く、掛ける)</p> <p>◎衛生面・健康をサポート 非常用トイレ・トイレトーパー、洗面具、歯ブラシ、口腔ケア用品、ウエットシート、ボディシート、ビタミン剤、基礎化粧品(オールインワンタイプ)、タオル</p> | <p>現金(小銭を多めに) 大切な人の写真(裏に名前・連絡先を記入) 緊急連絡先 余裕があれば持ち出したい貴重品(書類や宝石など) 重要書類コピー 免許証、マイナンバーカード 健康保険証、通帳表紙コピー クレジットカード券面 パスポート 加入保険の証書・契約書 年金証書</p> | <p>モバイルバッテリー(電池式) 乾電池 携帯ラジオ(手回し発電式) ラジオ用有線イヤホン 電源タップ ノート 筆記用具 大切な方の連絡先メモ</p> |
| <p>◎食生活をサポートする 水筒、食器、</p> | | <p>必需品 常備薬・持病薬・お薬手帳 生理用品 メガネ・コンタクトレンズ マスク・体温計・消毒ジェル</p> |

○家庭用備蓄品をそろえよう(その②)

避難生活を支えるもの

◎快適な生活環境をサポートする

ガムテープ、スリッパ、ゴミ袋
レジャーシート、ビニール袋
薄手のストール/ブランケット
着替え、キャップ、タオル
給水袋、ランタン、本など

◎真夏若しくは真冬に使うもの
【冬用】

カイロ、保湿クリーム
防寒具(靴下、ニット帽、手袋、ウインドブレーカー)

【夏用】

アイスパック、汗拭きシート
塩タブレット、虫よけスプレー
日焼け止め

◎家族によって必要なもの
【赤ちゃん】

母子健康手帳、ミルク(液体)
哺乳瓶、マグ、ベビーフード、
ベビー用食器、おしりふき、
オムツ、使用後のオムツ入れ
ガーゼ(口腔内や身体消毒)
授乳ケープ、抱っこ紐、
おもちゃ

【高齢者】

老眼鏡、成人用おむつ
入れ歯、入れ歯洗浄シート
折り畳み杖、補聴器

【ペット】

フード、食器、療法食、薬、
ケージ、予備の首輪、
リード(伸びないもの)
ペットシート、排せつ物処理用具、
トイレ砂などトイレ用品
ブラシ、おもちゃ、飼い主連絡先、
緊急連絡先、ペットの写真、
ワクチン接種状況や健康状態、
既往症の記録、
かかりつけ動物病院の連絡先

準備する物

- 交通費(各自負担)
- 帰宅後、袋詰め

費用

1人予算 2,000円

講師

協会職員

発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

被災地の視察(1日)

●被災地の視察

県内の災害碑・慰霊碑など現地視察

- ① 平成 11 年 6.29 豪雨災害(広島市佐伯区河内、安佐北区亀山など)
- ② 平成 26 年 8.20 豪雨災害(広島市安佐北区可部町、安佐南区八木町)
- ③ 平成 30 年 7 月西日本豪雨災害(広島市安芸区・東区・安佐北区、安芸郡熊野町、坂町小屋浦、岡山県倉敷市など)
- ④ 特別に昭和 47 年豪雨被災地(三次市十日市町)

県内の災害伝承館(広島市、熊野町、坂町など)

○移動は、基本的にJRを利用します。但し希望があればマイクロバスを利用できます。



写真は、昭和 47 年三次市十日市町一帯が約 3 メートルの浸水被害を受けた当時の説明を受けるキッズ防災士。

準備する物

交通費(各自負担)

現地説明を希望される場合は、事前に予約が必要です。

講師

協会職員

発展コース(プラチナキッズ防災士)養成講座

豪雨被災者から当時の体験談を聴く(60分)

●当時の豪雨災害体験者から体験談を聴く

(本事業は、広島市防災士ネットワークと砂防学会が作成し発刊した「体験談集」の中から、ご希望に合った方にお話しいただく予定です。)

○ご希望の災害とお話しいただく会場は、下記のとおりです

- ① 平成 26 年 8.20 豪雨災害＝広島市安佐北区可部町新建集会所
安佐南区八木町 豪雨災害伝承館)
- ② 平成 30 年 7 月西日本豪雨災害＝広島市東区 福田公民館
安芸区矢野 矢野公民館
安佐北区 新建集会所
安芸郡熊野町 災害伝承館
坂町小屋浦、災害伝承館
岡山県倉敷市 災害伝承館など)
- ③ 特別に昭和 47 年豪雨被災地(三次市十日市町)

○体験者は、年々高齢化が進み、お話しすることも困難となってきました。できるだけ早めに調整するとスムーズに実施できます。

準備する物

○お話ししていただく方を決めて行きますので、早めに連絡してください。

※会場付近は、道路が狭く住宅密集地が多いため、大型バスでの移動はできるだけ避けてください。(最大 20 名程度で計画してください)

※会場は、講義形式でお話を聴きます。資料は準備できない場合があります。

費用

災害体験者への謝金:1 人 1 時間で 1 万円を準備してください。

会場借り上げ代、マイク使用料、エアコン使用料は、会場によって違います。ご了承ください

講師

災害体験者

司会進行＝協会職員